

日 時  
授業場

児 童 1年  
授業者

1. 単元名 じんぶつスーパースター☆カードでしようかいしよう～たぬきの糸車～

2. 単元の目標

- (1) 身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使っていると同時に、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。
- (2) 場面の様子に着目して、たぬきやおかみさんなどの登場人物の行動を具体的に想像したり、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもったりすることができる。
- (3) 進んで、学習の見通しをもって内容や感想を「じんぶつスーパースター☆カード」にまとめようとする。

3. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア 身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使っていると同時に、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。	ア 場面の様子に着目して、たぬきやおかみさん等の登場人物の行動を具体的に想像している。(エ) イ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(オ)	ア 進んで、学習の見通しをもって内容や感想を「じんぶつスーパースター☆カード」にまとめようとしている。

4. 単元のデザイン (全8時間)

昔話読書コーナーを設置する【読書週間Ⅱ・PTA読み聞かせとの関連】

次	○学習活動 ・ 学習内容	手立て	評価の観点		
			知	思	態
1	○これまで読書してきた昔話を想起し、自分の大好きな登場人物とその理由を交流する。 ○教師の「じんぶつスーパースター☆カード」の複数のモデルを見ることを通して、単元の見通しをもち、学びの必要感をもつ。	●様々な昔話を読むことができるように「昔話読書コーナー」を設置する。 ●教師のモデルを提示することで、単元の見通しをもち、学びの意味や意義の納得が図られるようにする。			ア
	○「たぬきの糸車」を通読し、内容の大体を捉えたり、疑問点を確認したりする。	●挿絵を提示し、本文とのつながりを問うことで、たぬきの糸車がどのような話なのかを理解できるようにする。	ア	ア	
2	○きこりが住んでいる山奥の様子と、たぬきがいらずらをしている様子について考え、「ミニじんぶつスーパー☆カード」にまとめる。	●前話場面を読み、物語の設定(時・場所・人物等)に着目することで、物語の舞台や人物の行動について考えることができるようにする。	ア	ア	
	○おかみさんを見ながら、糸車を回すまねをするたぬきの様子について考え、「ミニじんぶつスーパー☆カード」にまとめる。	●糸車を回すたぬきと思わず吹き出しそうになるおかみさんの行動等について考えることで、人物同士の関係性について読むことができるようにする。	ア	ア	
	○罨にかかり、おかみさんに助けもらったたぬきの様子について考え、「ミニじんぶつスーパー☆カード」にまとめる。	●たぬきが罨にかかった様子や助けもらったたぬきの、おかみさんへの思い、おかみさんがたぬきを逃がした理由を問うことで、登場人物の行動を具体的に想像を広げて読めるようにする。			ア
	○たぬきが糸を紡ぎ、踊りながら帰っていく様子について考え、「ミニじんぶつスーパー☆カード」にまとめる。【本時】	●登場人物の紹介したいところとその理由を問うことで、たぬきが糸を紡いだり、びよんびよこ踊りながら帰ったりする場面の様子に着目し、登場人物の行動を具体的に想像を広げながら読むことができるようにする。			ア
3	○たぬきの糸車の登場人物の紹介を、「じんぶつスーパー☆カード」にまとめ、プレイルームに展示することを見通す。	●「ミニじんぶつスーパー☆カード」を振り返り、交流することで、今までの学習を生かし、自分なりの解釈を整理させる。		イ	ア
	○たぬきの糸車の登場人物の紹介を記述した「じんぶつスーパー☆カード」を交流する。	●学習に対する有用感や成就感を味わわせるために、自他の解釈の違いから相手の考えのよさを伝え合う相互評価をさせたり、自分の考えを自己評価させたりする。		イ	ア

## 5. 本時の目標 (6/8)

登場人物の紹介したいところとその理由を考える活動を通して、たぬきが糸を紡いだり、ぴよんぴよこ踊りながら帰ったりする場面の様子に着目し、登場人物の行動を具体的に想像を広げながら読むことができる。

## 6. 本時のデザイン

教師の働きかけ (●発問, ▲補助発問, ■指示・説明) ○子供の学習活動	◆留意点 ※評価
<p><b>1. 今までの学習を振り返り、登場人物の紹介したいところとその理由を確認する。</b></p> <p>●今までの学習で、登場人物の紹介したいところとその理由は見つかった？</p> <p>・お話の最後まで、詳しく読まないとはっきりと決められないよ。                  ・たぬきの紹介したいところは、決まってきたけど、理由のところはまだ話せないな。                  ・たぬきが、おかみさんに気付いてもらえたところを紹介したいよ。だって、たぬきはおかみさんのことが大好きだからね。                  ・私は、たぬきがたくさんの糸を紡いだところが紹介したいところだよ。糸が山のようにすごいね。                  ・ぼくは、たぬきがぴよんぴよこ踊りながら帰ったところを紹介したいよ。</p>	<p>◆登場人物の「紹介したいところとその理由」を整理していくという見直しをもたせる。</p> <p>◆登場人物の紹介したいところとその理由を考える活動の中で、子供同士の対話から、たぬきが糸を紡いだ理由やぴよんぴよこ踊りながら帰った理由について、話題を焦点化していき、教師が発問しない場合もある。</p>
<p><b>とうじょうじんぶつのしょうかいしたいところとそのりゆうをかながえよう。</b></p>	
<p><b>2. 登場人物の紹介したいところとその理由について考える。</b></p> <p>・たぬきが上手な手つきで、糸を紡いでいるところを紹介したいと思ったよ。だって、今までおかみさんがしていたのを見ていたからだよ。                  ・たぬきが糸を「山のように」積んでいたところを紹介したいよ。どうしてかという、おかみさんに、命を助けてもらったお礼をしたかったんじゃないかなと思ったよ。                  ・たぬきが、ぴよんぴよこ踊りながら帰っていったところを紹介したいよ。その理由は、おかみさんに気付いてもらえてうれしかったんじゃないかな。</p>	<p>◆状況に応じて、「見つかったら、大変ではないですか？わなにかかったのに、糸を紡ぎますか？」                  「お礼を言いたいなら（糸をつむいでおくよなど）直接言えばいいのではないですか」「普通は山小屋に行かないですよね？」等の問い返しを行う。</p>
<p><b>3. たぬきの行動について、叙述を基に想像を広げながら読む。</b></p> <p>●たぬきはわなにかかって、怖い思いをしたにもかかわらず、どうしてまた山小屋に来て糸を紡いだのでしょうか。</p>	<p>◆「うれしくてたまらない」という言葉に着目して、恩返しをしたことをおかみさんに気付いてもらえたことへの喜びに気付く、たぬきが踊りながら帰った理由を想像することができるようにする。</p>
<p>・糸車を回したかったからだと思う。「キーカラカラ キークルクル」と糸車を回すまねをしていたし、毎晩毎晩やってくるぐらい好きだったのだと思うよ。                  ・おかみさんのまねをして、楽しめたかったのではないかな。「おかみさんがしていたとおりに」と書いてあるよ。                  ・おかみさんに助けてもらった恩返しをしたかったと思う。前の場面では、わなにかかったたぬきを、おかみさんが助けてくれたよ。                  ・きっと「おかみさん、よろこんでくれるかな。」と思いながら、糸を紡いだと思う。                  ・おかみさんが糸をつむぐ様子を見て、真似をしていたから、おかみさんのように上手に紡ぐことができたのだと思うな。                  ・そして、たぬきはうれしくてたまらなかつたんだよね。ぴよんぴよこおどりながらとつながるね。</p>	<p>◆状況に応じて、「おかみさんに見つかったのに、ぴよんぴよこっておかしくないですか」「せっかくおかみさんに見てもらえたのなら、おかみさんと一緒に過ごせばよかったのではないですか」「そんなにたぬきがうれしいのなら、帰らなければいいのではないですか」等の問い返しを行う。</p>
<p>●どうして、たぬきはぴよんぴよこ踊りながら帰ったのでしょうか。</p> <p>・おかみさんに見られて、恥ずかしい気持ちもあったのかな。                  ・糸車を回せるようになったことをおかみさんが知ってもらい、満足したと思うよ。                  ・おかみさんに久しぶりに会えたということもあるかもしれないね。                  ・「おかみさんがしていたとおりに」「糸を紡ぐ」と書いてあるね。だから、いたずらができたからではなく、役に立ててうれしかったと思うよ。                  ・おかみさんに助けてもらったお返しに、たくさんの糸を紡いで、役に立とうと頑張っていたところを、おかみさんにわかってもらえて嬉しかったと思うよ。                  ・おかみさんがいなかったら、畏にかかったときに、たぬきじるにされていたかもしれないから、何とかおかみさんに恩返しをしたかったと思うよ。                  ・おかみさんに、恩返ししたことを気付いてもらえたからだよね。                  ・確かに、役に立ちたい気持ちや恩返しをしたい気持ちがあるんだろうね。                  ・そういえば、ぼくはよいことをして褒められたときに、「うれしくてたまらない」という気持ちになるよ。たぬきにも、そんな気持ちがあったのだと思う。                  ・「うれしくてたまらないというように」と本文に書いてあって、おかみさんにたぬきが恩返しをしたことに気付いてもらえたから、たぬきはうれしくて、ぴよんぴよこ踊りながら帰っていったのだね。</p>	<p>◆状況に応じて、「おかみさんに見つかったのに、ぴよんぴよこっておかしくないですか」「せっかくおかみさんに見てもらえたのなら、おかみさんと一緒に過ごせばよかったのではないですか」「そんなにたぬきがうれしいのなら、帰らなければいいのではないですか」等の問い返しを行う。</p>
<p><b>4. 本時のふり返しをする。</b></p> <p>●学習したことを基に、登場人物の紹介したいところとその理由を書きましょう。</p> <p>・ぼくは、たぬきがぴよんぴよこ踊りながら帰ったところを紹介したいです。おかみさんに、たぬきが糸を紡いだことに気付いてもらえたから、たぬきが最後の場面でも、ぴよんぴよこ踊りながらうれしそうに帰って行ったね。もしかしら、おかみさんと一緒にいればいいかなとも思ってたけど、たぬきなりに恥ずかしい気持ちや、人間と一緒にいたらダメなんじゃないかという思いもあったのかもしれないね。そのあたりを、「じんぶつスーパースター☆カード」にまとめたいな。                  ・たぬきの紹介したいところは、おかみさんに助けてもらったお返しに、冬におかみさんがしていた通りにしてたくさんの糸を紡ぎ、役に立とうとしていたところかな。たぬきが糸を紡いで「恩返し」をしているところを「じんぶつスーパースター☆カード」にまとめたいな。                  ・私が、たぬきの紹介したところは、たぬきは、自分のことを助けてくれたおかみさんが好きになったので、おかみさんのように糸を紡いだところを「じんぶつスーパースター☆カード」にまとめたいな。</p>	<p>※【思・判・表】</p> <p>・登場人物の紹介したいところとその理由を考える活動を通して、たぬきが糸を紡いだり、ぴよんぴよこ踊りながら帰ったりする場面の様子に着目し、登場人物の行動を具体的に想像を広げながら読んでいる。</p>

## 7. 国語科における主張

### (1) 国語科における「深い学び」の具現に向けて影響力を発揮し合う「学び合い」

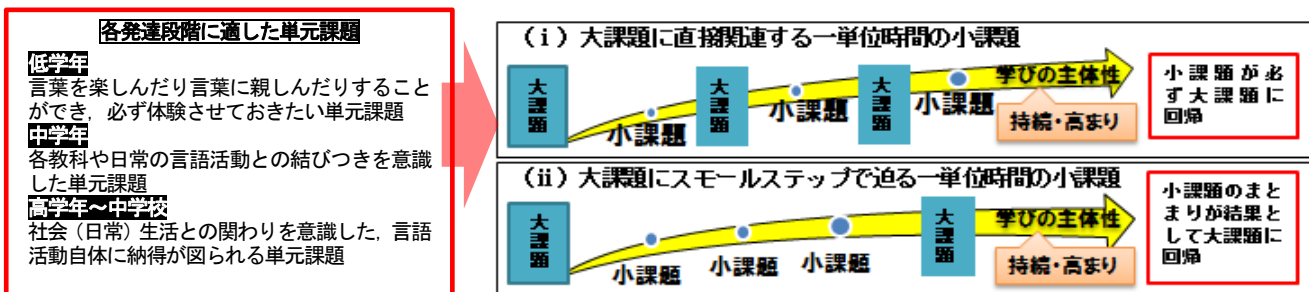
国語科における「深い学び」とは、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにしたり、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養ったりなど、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する」学びである（文部科学省，2017）。この「深い学び」の具現に向けて、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めるといった国語科的な見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語科的に考える資質・能力を育成する。特に、「深い学び」の具現に向けた「影響力」については、子供の「課題解決のために自分が話したり聞いたり書いたり読んだりした言葉を、自他の知識や経験と重ねて理解したり表現したりすることで自分の考えを再構築したり、その過程を振り返ったりしたことを捉えて表現したりすること」と捉えている。この「深い学び」の具現に向けた影響力を発揮し合う「学び合い」の展開を目指したい。

#### 主張する手立て

- ① 【主に単元導入時】日常生活や社会生活と結びつけ、「やりたい・解決したい」「高め（広げ）ていかなければならない」「現段階では考えが不十分だ」といった学びの必要性を生み出す課題設定
- ② 【単元中盤～終盤】言語活動あるいは単元の課題に関わる一次発信の交流を経て、内省を生かした二次発信の機会を保障する場の設定
- ③ 自他や他者同士における「言葉による見方・考え方」の比較や統合を促す発問・問い返し・指示（条件提示）

### ① 日常生活や社会生活と結びつけ、「やりたい・解決したい」「高め（広げ）ていかなければならない」「現段階では考えが不十分だ」といった学びの必要性を生み出す課題設定

学習の見通しをもたせるうえで、児童生徒の課題意識と指導のねらいを一致させながら、学びの必要性が生まれる課題を設定していく。その際、日常生活や社会生活に関わらせた内容や場の設定を心がける。また、各一単位時間の学習課題についても、単元課題との有機的な結び付きを明確にしながらか設定することにより、児童・生徒が学びの必要性を維持し、学習の見通しをもつことができる。



### ② 言語活動あるいは単元の課題に関わる一次発信の交流を経て、内省を生かした二次発信の機会を保障する場の設定

単元の中心課題に対し、児童生徒による言葉の正誤や適・不適、美醜についての「判断」が文字言語または音声言語によってなされる。しかし、学習場面として多くは単元末に置かれるため、「再実践」の機会を単元中に保障されることが少ない。有限である時数の中で作品や発表を複数回講じることは現実的ではないが、振り返りの記述による内省のみでなく、「もし修正するならば」という再設計や、一次発信を単元中盤に上げて本発信の機会を保障する等、「こうすればよかった」を単元中で感得・体得できる単元を可能な限り構築する。

### ③ 自他や他者同士における「言葉による見方・考え方」の比較や統合を促す発問・問い返し・指示（条件提示）

単元を通じた課題や一単位時間における課題に対し、個々の児童・生徒が「自己の認識や判断」、あるいは小集団学習における立場・役割を得た後に、集団思考（小集団活動の場面を含む）を通して自他や他者同士の意見を比較したり、組み合わせたりしようとするを促す発問・問い返し・指示（条件提示）等を行う。①の手立てにより、他者のもつ言葉の感覚や課題における最適解を求める姿勢は、すでに生まれていると考えられる。したがって、発表や話し合いの意味づけや条件づけをその都度明確にする働きかけを行うことで、能動的な関わり合い（コミュニケーション力の発揮・伸長）が生まれるであろう。丸山（2010）も、「交流活動には、互いの差異とその原因との自覚を促し、それに連動して教材文のことばにこだわるといことばの学びを活性化させるといった効果がある」としながらも、「グループの読みが互いに似通っている場合は（中略）交流活動の方向の転換を図る指示を与える、といった教師の働きかけのあり方を今後さらに検討する必要がある」としている。また、課

題に対する「立場」やその「根拠」を、児童・生徒の発言によって共通点や相違点等を整理し、解決に向かわせるような発問・問い返しを吟味し、適宜講じる。これにより、「思いや考えを他者と共有」しながら、本時あるいは単元の目標に近づいていくことになると思う。

#### 授業の主張点

- ① 登場人物の紹介したいところとその理由を考え、互いの共通点・相違点・根拠を顕在化させることで、登場人物の行動を具体的に想像を広げて読むことができるようにする
- ② 子供たちが表出した意見について、問い返しを位置付け、本文の叙述を根拠に、登場人物の行動を具体的に想像を広げて読むことができるようにする

本時では、登場人物の紹介したいところとその理由を考える活動を通して、たぬきが糸を紡いだり、ぴよんぴよこ踊りながら帰ったりする場面の様子に着目し、登場人物の行動を具体的に想像を広げながら読む姿を目指している。

授業の主張点の一点目は、登場人物の紹介したいところとその理由を考え、互いの共通点・相違点・根拠を顕在化させることで、登場人物の行動を具体的に想像を広げて読むことである。単元の学習をしていく上で、子供たちは、たぬきとおかみさんの関係性について問題意識をもっている。二人の関係性について、思考を深めていくことで、例えば、「おかみさんに助けてもらった恩返しをしたかったと思う。前の場面では、わなにかかったたぬきを、おかみさんが助けてくれたよ。」「きっと『おかみさん、よろこんでくれるかな。』と思いながら、糸を紡いだと思う。」等の「恩返し」といった視点で想像を広げる読みが予想される。また、「うれしくてたまらない」という言葉に着目して、恩返しをしたことをおかみさんに気付いてもらえたことへの喜びに気づき、たぬきが踊りながら帰った理由と関連付けて想像することができると思う。このように、「登場人物の紹介したいところとその理由」という切り口から、想像を広げて読む姿が見られると考えた。

授業の主張点の二点目は、子供たちが表出した意見について、問い返しを位置付け、本文の叙述を根拠に、登場人物の行動を具体的に想像を広げて読むことである。子供一人一人の思考の流れを大切にしながら、状況に応じて、「たぬきが糸を紡ぐ理由」について考えるときに、「見つかったら、大変ではないですか？わなにかかったのに、糸を紡ぎますか？」「お礼を言いたいなら（糸をつむいでおくよなど）直接言えばいいのではないですか」等の問い返しを行う。また、状況に応じて、「おかみさんに見つかったのに、ぴよんぴよこっておかしくないですか」「せっかくおかみさんに見てもらえたのなら、おかみさんと一緒に過ごせばよかったのではないですか」「そんなにたぬきはうれしいのなら、帰らなければよかったですね」等の問い返しを行う。そうすることで、今まで見えなかった言葉と言葉のつながりや、文と文の新たなつながりが見え、自己の読みのよさを実感することにつながると考える。

このような読み方のよさを実感することが、単元の終末である「じんぶつスーパースター☆カード」において、本文の叙述を根拠に想像を広げながら読んだことを自分の感想を整理する姿につなげ、さらには、日常の読書活動で物語のよさを味わいながら、読書する姿にもつなげていきたい。

#### 引用・参考文献

- ・文部科学省 「学習指導要領（平成二十九年告示）解説 国語編」, 東洋館出版, 2018
- ・水戸部修治 「『協同的学び合い』をつくる言語活動」, 明治図書, 2012
- ・丸山 範高, 坂口智子 「読みの振り返りによって促されることばの学びに関する一考察 - - 交流活動を通じた中学生による国語科教材文の読みの軌跡を手がかりとして」, 和歌山大学教育学部紀要 人文科学, 2010